

# まちの話題あれこれ

## おおづちの自然と歴史体感ウォーキング ～大槌の魅力再発見～

11月4日(日)、「おおづちの自然と歴史体感ウォーキング」が開催されました。

心地良い天気の中、約50名の参加者が大槌町役場前を出発。大念寺や小鏡神社、降海型のイトヨが生息する水域など、歴史と自然を感じながら町内を散策し、説明に耳を傾けていました。

また、ウォーキング終盤には大槌にも実際に足を運んだ伊能忠敬の「歩測」を体験。自分の歩幅と歩数を下に、震災前に北日本銀行があった場所から、役場までの距離を測りました。

今回のウォーキングに参加した女性は「自分が普段生活しているところに、自分の知らない歴史や自然があり、新しい発見がたくさんありました」と笑顔で答えてくれました。



## 未来を照らす希望の灯り ～希望の灯り分灯式開催～

11月11日(日)、中央公民館上の駐車場で希望の灯りが点灯しました。

「希望の灯り」は、敦賀みなとライオンズクラブが企画。阪神大震災の被災地である神戸市で灯されている「1,17希望の灯り」と、大槌より先に分灯されていた、陸前高田市と福島県南相馬市の「灯り」が集まり、14時46分、碓川町長をはじめとした、多くの人たちによって分灯されました。

町長は「今回の分灯に協力して下さった全ての人に感謝している。苦しいとき、悲しいとき希望をもてる場所になって欲しい」と希望の灯りへの思いを語りました。

希望の灯りは何時でも大槌を照らしています。是非一度足を運んで見てください。



## 復興の思いを手ぬぐいに ～色鮮やかな支援届く～

10月22日(月)、長野市災害ボランティアから、色鮮やかな手ぬぐいが届きました。

長野市災害ボランティアは、「南部鼻曲がり鮭」をモチーフにした、Tシャツやトートバックなどを販売。売り上げの一部を大槌中学校、吉里吉里中学校に寄附していただき、部活動の備品などが整備されています。また、今年4月から町内の花屋さんからお花を購入、役場庁舎に寄附していただいています。そのお花はいつも利用者の目を楽しませています。

今回の手ぬぐいは、イラストレーターの長野亮之介さんがデザイン。この手ぬぐいの売り上げも、大槌中学校、吉里吉里中学校の部活支援などに使用されるとのことです。



## 静岡県島田市との交流

### ～マストで名産のお茶販売～

11月4日(日)、静岡県島田市が名産のお茶を販売。マスト1階のホールに豊かなお茶の香りが広がりました。

島田市は今年5月に大槌町の災害廃棄物の受け入れを表明し、交流が始まりました。

今回は島田市名産のお茶のほかにも、お茶の生産過程から出る茎を利用した「茎茶」、静岡県や島田市にちなんだラムネやお菓子などを販売しました。

立ち寄った人は、試食や試飲を楽しみながら商品を買っていました。



## 犯罪のない、きれいな町に

### ～大槌中学生による落書き清掃～

11月15日(木)、釜石警察署と大槌中学校奉仕委員会が協力してパーラールート45の地下道で落書き清掃が行われました。参加した奉仕委員のメンバーは、地下道の壁一面に書かれた落書きの上にローラーを使ってきばきと白いペンキを塗っていました。

釜石警察署の川上生活安全課長は「落書きなどを放っておくと、その周辺での車上荒らしなどの犯罪につながる。今回の清掃は町の美化だけでなく、犯罪抑制の意味もある」と語ってくれました。

大槌中学校3年の藤原真紀君は「ローラーを使っての作業は楽しいし、きれいになった壁を見ると気持ちいい」と作業に没頭していました。

